

## 連分数展開

$a_1=1, a_{n+1}=1+\frac{1}{1+a_n}$  ( $n=1, 2, 3, \dots$ ) で定義される数列  $\{a_n\}$  の一般項は求められる。

具体的には、特性方程式  $x=1+\frac{1}{1+x}$  の解  $\alpha=\sqrt{2}, \beta=-\sqrt{2}$  を用いて、

$$a_n = \frac{\alpha(1-\beta)^n - \beta(1-\alpha)^n}{(1-\beta)^n - (1-\alpha)^n} = \sqrt{2} \cdot \frac{(1+\sqrt{2})^n + (1-\sqrt{2})^n}{(1+\sqrt{2})^n - (1-\sqrt{2})^n} = \sqrt{2} \cdot \frac{1+(2\sqrt{2}-3)^n}{1-(2\sqrt{2}-3)^n}$$

と表される。

これを、分数の計算せずにそのまま書き表せば、

$$a_3=1+\frac{1}{2+\frac{1}{2}} \left( = \frac{7}{5} \right), \quad a_4=1+\frac{1}{2+\frac{1}{2+\frac{1}{2}}} \left( = \frac{17}{12} \right), \quad a_5=1+\frac{1}{2+\frac{1}{2+\frac{1}{2+\frac{1}{2}}}} \left( = \frac{41}{29} \right), \quad \dots$$

となる。これを繰り返していくと  $a_n$  の値は  $\sqrt{2}$  に近づいていく。なぜならば  $r=\frac{1-\alpha}{1-\beta}$  とおく

と、 $|r|=(\sqrt{2}-1)^2 < 0.2$  であるから、 $r^n$  は  $n$  を限りなく大きくすると 0 に近づく ( $n=10$  のとき、 $0.2^{10} = \frac{2^{10}}{10^{10}} \doteq \frac{10^3}{10^{10}} = 0.0000001$ )。すなわち、 $a_n = \sqrt{2} \cdot \frac{1+r^n}{1-r^n}$  は  $\sqrt{2}$  に近づく。

$1+\frac{1}{2+\frac{1}{2+\frac{1}{2+\frac{1}{\ddots}}}}$  を  $\sqrt{2}$  の連分数という。一般に、 $b_0+\frac{c_1}{b_1+\frac{c_2}{b_2+\frac{c_3}{b_3+\frac{c_4}{b_4+\ddots}}}}$  … ① の形の分

数を連分数 (continued fraction) という。①を、 $b_0+\frac{c_1}{b_1}+\frac{c_2}{b_2}+\frac{c_3}{b_3}+\dots$  と、2 番目以降の

“+” を下げて表すこともある。特に、 $c_1=c_2=c_3=\dots=1$  のとき、 $[b_0, b_1, b_2, b_3, \dots]$  と表すことが多い。この表記を用いると、 $\sqrt{2}=[1, 2, 2, 2, \dots]$  である。これを循環小数にならって、 $\sqrt{2}=[1, \dot{2}]$  とかく。上の数列  $\{a_n\}$  の計算からわかるように、 $\sqrt{2}$  の連分数展開を途中で止めると、 $\sqrt{2}$  の近似値になっている。実際に、

$$a_4 = \frac{17}{12} \doteq 1.417, \quad a_5 = \frac{41}{29} \doteq 1.4138, \quad a_6 = \frac{99}{70} \doteq 1.41429, \quad \square \quad \text{である。}$$

実数  $\alpha$  について、 $\alpha = b_0 + \frac{1}{\alpha_1}, \alpha_1 = b_1 + \frac{1}{\alpha_2}, \square, \alpha_n = b_n + \frac{1}{\alpha_{n+1}}, \square$  を満たすように整数  $b_0$

と正の整数  $b_1, b_2, \dots$  を定めることによって、実数  $\alpha$  の連分数展開が得られる。

$\sqrt{3}$ を連分数展開して、 $\sqrt{3}$ の近似値を求めてみよう。

$$\sqrt{3} = 1 + \frac{1}{\alpha_1}, \quad \alpha_1 = \frac{1}{\sqrt{3}-1} = \frac{\sqrt{3}+1}{2} = 1 + \frac{1}{\alpha_2}, \quad \alpha_2 = \frac{2}{\sqrt{3}-1} = \sqrt{3} + 1 = 2 + \frac{1}{\alpha_3},$$

$$\alpha_3 = \frac{1}{\sqrt{3}-1}, \quad \dots\dots \text{となり, } \sqrt{3} = [1, \overset{\cdot}{1}, \overset{\cdot}{2}] \text{ である。}$$

$$[1, 1, 2] = 1 + \frac{1}{1 + \frac{1}{2}} = \frac{5}{3}, \quad [1, 1, 2, 1] = 1 + \frac{1}{1 + \frac{1}{2 + \frac{1}{1}}} = \frac{7}{4},$$

$$[1, 1, 2, 1, 2] = 1 + \frac{1}{1 + \frac{1}{2 + \frac{1}{1 + \frac{1}{2}}}} = \frac{19}{11} \doteq 1.7273\dots\dots$$

である。このようにして、無理数の近似値を求めることもできる。

(参考文献 岩波講座 現代数学への入門 代数入門1 上野健爾著)